

2015.1 January

京都から
真の地方創生の実現を

●夢中！熱中！ふくしびと



もえくす

課題である。

$$\begin{pmatrix} M \\ A \end{pmatrix}$$



安心と希望の持てる 地域社会を築いていくために

京都府社会福祉協議会 会長 増田 正蔵

新年あけましておめでとうござい
ます。

昨年は「安心と希望の持てる支え
合いの京都の実現」をめざし、京都府
内の各市町村社会福祉協議会や民生
委員・児童委員の皆様、社会福祉施
設や関係団体の皆様とともに、地域
の絆づくりや福祉人材の確保、育成
を支援する事業などを進めてまいり
ました。こうした活動を展開できま
すのは、京都府をはじめ関係各位の
温かい御理解と御支援の賜物と深く
感謝申し上げます。

福祉分野におきましては、高齢単
身世帯の増加や少子化、厳しい経済
情勢などから社会保障、社会福祉制
度の抜本的な見直しが進んでおりま
す。また、一方で社会福祉法人制度
のあり方が厳しく問われております。
私ども社会福祉法人は情報開示に努

め、その使命や役割をしっかりと果た
すことができます重要になっており
ます。

昨年春に放映されましたNHKド
ラマ「サイレント・プア」では、現代
社会の「陰」で孤立し、苦境に陥った
人たちに寄り添う地域住民やその活
動を支えるコミュニティワーカーの
姿が描かれていましたが、京都府内
でも社会的に孤立し、生活に困窮す
る人たちの自立を支援する活動や自
立への一歩を踏み出した人たちを支
える地域づくりが始まっておりま
す。京都府社会福祉協議会は、この

ような取り組みを支援するため、幅
広い地域福祉のネットワークである
「絆ネット」の構築や社会福祉法人の
連帯を力とした社会貢献活動(京都
府社会福祉法人経営者協議会との協
働)、生活困窮者自立支援事業、法人
後見の促進などを進めてまいります。

深刻さを増している福祉人材の確
保につきましては、「福祉人材の確
保、育成、定着を一貫してサポート
する福祉人材センター」を目指し、施
設や事業所・関係機関との連携を強
化しております。近年、各地で災害
が相次ぐなか、災害時における要配
慮者支援を含む災害ボランティア活
動の体制整備にも力を入れてまいり
ます。また現在、平成27年度から平
成31年度の5年間を期間とする第4
次中期計画を策定中ですが、この新
たな計画に基づき、さらに歩を進め
る所存です。

結びに、新しい年も昨年同様、私
ども京都府社会福祉協議会の活動に
御理解と御協力を賜りますようお願い
申し上げますとともに、皆様の御
健勝と御多幸を心からお祈りいたし
ます。



京都から 真の地方創生の実現を

京都府知事 山田 啓二

府民の皆さま、あけましておめでとう
ございませう。

昨年の春、多くの皆さまから「信託を
賜り、府政のかじ取りを引き続き担わ
せていただくことになりました。皆さま
からいただいた期待を胸に、全力を尽く
して京都府政を推進してまいりますので
、府政に対するお力添えをよろしく願
い申し上げます。

社会は大きな転換期に

昨年は、未来に向かっての課題が明確
になった年でした。「平成26年8月豪雨」
をはじめ、気候変動の影響により京都は
3年連続の甚大な災害に見舞われました。
改めて被害を受けた皆さまにお見舞
いを申し上げます。府は、一日も早い復
旧と将来にわたっての安全確保対策に、
国・市町村と連携し全力を挙げて取り組
んでいるところでありますが、「経験した
ことの無い」や「史上最大」という表現が
毎回のように入り返される現状を見ると、
もう一段階上の根本的な防災対策が大
きな課題になっていると思います。

また昨年、私が会長を務める全国知事
会で「少子化非常事態宣言」の決議を行
いましたが、地方消滅とまで言われる少
子化の問題も高齢化の進展と併せて一
刻の猶予もならない状況にあり、婚活
から出産、子育て、雇用問題まで、幅
広い分野で抜本的な対策を講じなければ
なりません。

大交流時代の実現へ

ただ、一方で京都の観光客数は大幅な
回復を見せ、植物園は近年最高の入
園者数を記録し、「海の京都」観光圏に
認定された府北部5市2町で開催され
た「海フェスタ京都」では140万人を
超える方々にご来場いただきました。

京都府立医科大学、京都府立大学及
び京都工芸繊維大学の3大学による全
国初の教養教育共同化施設が完成し、
豊かな人材育成交流拠点として活動
を始め、学研地域にも企業の立地が相
次ぎ、「けいはんなオーブンイノベーション
センター(KIC)」(旧「私のしごと館」)
も動き始めました。

さらに今年は、悲願であった京都
縦貫自動車道が全線開通し、高速道
路の整備が大きな節目を迎えます。
また、京都舞鶴港の整備やJR奈良線
の複線化事業など、京都がこれまで
取り組んできた基盤整備が大きな成
果を上げつつあります。これ

らの整備された交流基盤の上に、「海
の京都」、「森の京都」、「お茶の
京都」や15の「みやこ構想」の花を
咲かせ、文化・スポーツ、学術・研
究、産業などあらゆる分野で「新
たな交流を進める」「世界の交流
首都・京都」が姿を現しつつありま
す。とりわけ今年は、本阿弥光悦が
鷹峯の地で光悦村を開いてから400
年の節目の年。オール京都の力を結
集した「琳派400年記念祭」で、着
物や工芸品など伝統産業の復興を
目指すとともに、「PARASOPHIA」:
京都国際現代芸術祭2015と併せて
京都の文化新時代を築き上げてい
きます。

真の地方創生を目指して

これまでの安心を超える「新たな安
心」の創出、北から南まで京都の資
源と魅力を活かした「新たな交流」
により、府民の皆さまと力を合
わせて京都の未来を切り開いてい
きたいと思っております。「少子化
対策」、「東京一極集中の是正」
、「地域活性化」という地方創生を
進めるためにも、京都から安心と交
流をつくり出し、お互いが支え合
う地域社会を築いていく。京都に
は、それを可能にする力があります。
今こそ、私たちの持つ「京都力」を
結集し、真の「地方創生」をつくり
上げていきたいと思います。

この一年の、皆さまのご健勝とご
多幸を心からお祈り申し上げます。

福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です!

福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応

詳しい補償内容はこちらまで
福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合
保険代理店 **SRM** 株式会社 **エスアールエム**

専用TEL **075-822-8613**
福祉の保険
ホームページ **www.srm-net.co.jp/smile/**

引受保険会社:三井住友海上火災保険株式会社
この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催されるときには「福祉行事保険」も併せてご利用ください。

平成26年度 人権擁護啓発ポスターコンクール

京都府社会福祉協議会会長賞が 決定しました!

人権擁護啓発ポスターコンクールは、府内の小・中・高等学校の児童・生徒が、人権をテーマとしたポスター(絵画)の制作を通じて基本的人権について一層理解を深め、人権尊重の精神を養う機会とするため昭和59年度から実施されています。

今年度は小・中・高の中から187校5,332件の応募がありました。

その中から京都府社会福祉協議会会長賞として、京丹後市立大宮南小学校6年「鈴木 夏乃(すずき かの)さん」の作品が選ばれました。

作品は京都府ホームページでご覧になることができます。

生活困窮者の支援を通して、社会的孤立をなくす地域づくりを

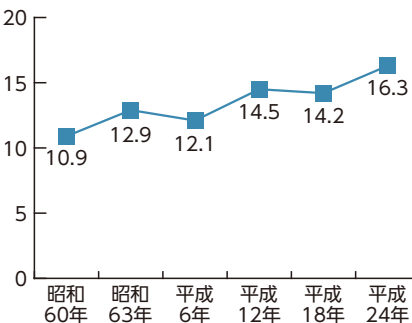
生活福祉資金貸付制度の役割を考える

非正規雇用の割合が労働者全体の4割近くまで増加し、子どもの貧困率は約6人に1人と過去最悪の水準です「グラフ1」。生活保護受給者数は215万人に達し、経済的な格差と貧困の連鎖が広がっています。「貧困」は経済問題だけでなく、孤独死や虐待、不登校などの形でも現れます。地域の人々のつながりの弱さ、社会的孤立の問題が背景にあります。生活福祉資金の相談窓口でも、このような社会情勢を反映した相談が多数寄せられており、福祉・教育支援資金の貸付件数が近年、飛躍的に増加しています「グラフ2」。

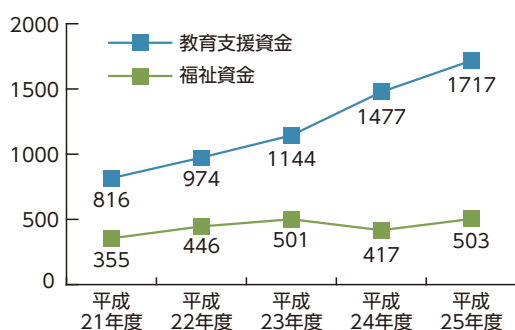
本誌面では、生活福祉資金貸付制度を利用した取組みとして、京都市西京区の桂学区民生委員である小倉正さん(74)の活動を紹介するなかから、生活困窮者支援のあり方や生活福祉資金に期待される今日的な役割を考えます。

今日まで、民生委員と社会福祉協議会は共に貧困問題と

【グラフ1】子どもの貧困率の推移



【グラフ2】近年の福祉・教育支援資金貸付決定状況(京都市内)



京都市西京区・桂学区の地域特性

京都市西京区・桂学区は阪急桂駅付近の住宅街です。小倉さんの担当地域は高齢化と少子化が進み、今では小学生が10人しか居なくなりました。近年は、他の地域から転入する住民が町内会に加入しないケースが増えています。近隣住民と接触することに消極的で、低所得世帯の場合は町内会費の負担が大きいために背景にあります。しかし、これでは見聞板を廻せないなど必要情報を届けられず、地域交流

が絶たれてしまっています。小倉さんは、自治会非加入者、高齢者や低所得の方が地域の見守りの網から漏れてしまうことを危惧しています。取材の間も、小倉さんは歩きながら、地域で道端やベランダに居る高齢者の姿を少しでも見かけると、小倉さんから「元気ですか。最近、どう過ごされていますか？」と意識的に声掛けをされていました。

貸付支援事例と大切な視点

小倉さんは、生活福祉資金を積極的に活用して支援されています。そのうち、独居高齢者に福祉資金の貸付を行った2事例を紹介していただきます。

小倉さんの支援で大切なポイントとは、①生活に困窮され

ている方の思いや悩みを徹底的に受け止める姿勢を貫いていること ②貸付手続の支援のほか、食事、通院、家計など生活全体にわたって見守り、寄り添い支援を行っていること ③行政や施設など関係機関、専門職、近隣住民の方な

りと連携し、役割分担をすめながら地域生活を支えていることです。



京都市西京区桂学区民生委員 小倉 正さん

地域問題として、貧困問題に立ち向かう

平成27年4月から全国で「生活困窮者自立支援制度」がスタートし、各自自治体で相談支援窓口が開設されます。新制度は、生活保護を受給していないが、生活に困窮される方への専門職による生活相談や就労支援を行うものです。生活福祉資金貸付制度も有力な支援方法の1つとして期待されています。

しかし、生活困窮者に生活福祉資金の貸付ができたとしても、困りごとの全てが解決するとは限りません。むしろSさんやKさんのように、生活困窮者が抱える生活課題は複合的で長期化したり、孤立状態に陥ったりすることが多いのです。このとき、必要な福祉制度などの公的支援を受けることができる環境と、身近な住み慣れた地域に、ともに悩みに耳を傾け、解決に向けて寄り添う人の存在が大切です。生活福祉資金貸付制度の意義は、資金貸付とともに、地域での相談支援活動が備

わってこそ、制度本来の目的を果たすことになるのです。京都市内では、生活福祉資金の償還支援方策について平成24年9月に「償還促進方針」を定め、世帯の生活状況の聴き取りや困りごとへの支援を民生委員と社協が協力して取り組んでいます。「滞納」は、借受世帯が生活に立ち行かなくなっているサインと捉えることができます。そして、地域に存在する貧困問題に住民自身が気づく機会となり、民生委員と社協はもちろん、行政をはじめとする関係機関が力を合わせて取り組むプロセスこそが大事です。この取り組みの副次的効果として償還率が年々アップしています。

「貧困の連鎖」を断ち切るためには、自己責任の過度な追及ではなく、暮らし、生活の基礎を支える社会保障の充実が重要です。この土台のもとに、各地域における社会的孤立をなくす地域づくり、ネットワークが欠かせないと言えます。

Sさんへの支援

事例1 福祉資金貸付と退院後の在宅生活支援

Sさんは入退院を繰り返している80代女性です。身寄りがなく生活保護を受給しています。小倉さんは、Sさんの退院時に身元引受人として支援しつつ、熱中症対策のためにエアコンが必要となったので、西京区社協と連携し在宅生活でエアコン設置に向けて資金貸付が受けられるよう調整しました。このとき、貸付は本人証明書類が必要ですがSさんは持ち合わせがありません。そこで、Sさんと一緒に「住基カード」の作成で区役所まで付き添いました。貸付後も見守りを続けています。

Kさんへの支援

事例2 緊急小口資金貸付と生活困窮状態からの脱却支援

Kさんは独居の80代男性で、家族と疎遠の状態です。消費者金融からの借入が多く年金生活を圧迫しています。日々の食事でもまもなく、支援開始当初、冷蔵庫は空の状態でした。ケアマネジャーや老人福祉員などと相談して、カップうどん、野菜、パン、牛乳などを差し入れました。そして、通院治療をすぐに再開できるよう、緊急小口資金の貸付につなげました。治療費の支払方法を病院と交渉するなど徐々にKさんと信頼関係を築くなかで、月々の家計のやり繰りのアドバイスをするなど継続的な見守りを行いました。

夢中！熱中！

だから続けたい この仕事

ふくしびと

福祉の現場で働く人たちの熱い想いメッセージを伝えるコーナーです。京都府内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元気や楽しさ、やりがいや「生」の声をお届けします。

仕事を始めたきっかけ

大学4回生の時に始めたボランティア活動をきっかけに、福祉の仕事に魅せられ、京都市内の身体障害者療護施設に約3年間勤務していました。利用者一人ひとりが主体的に生活していくことを支援する難しさや、やりがいを感じながら仕事をしていましたが、結婚・出産を機に退職し、夫の実家がある京丹波町に移り住みました。しばらく子育てに専念しましたが、「人と深く関わることが出来る福祉の仕事に」という思いが、あったので、社会福祉士の国家資格を取得し、京丹波町社協に入



町社協に入

職しました。

やりがい・楽しかったエピソード

ボランティア活動やサロン活動を始めとする地域福祉活動全般の支援に関わって約7年。地域を取り巻く環境の変化や活動者の高齢化などにより、長年続けられていた活動のあり方を見直す機会が増えています。時には人生の先輩である活動者に厳しい意見を言わなければならぬということもありますが、課題を共有し、本心に支援の必要な人に寄り添える形に変えることができた時には心からやりがいを感じます。

また、社協をもっと身近に感じてもらえるよう、平成24年11月23日に誕生したキャラクター「ここたん」を活用した広報活動を自分自身も楽しみながら企画しています。昨年には「恋

地域の素晴らしい取組みを京丹波町の皆が大切に思えるようにしたい

するフォーチュンクッキー京丹波Ver.」に、職員有志と「ここたん」で参加し、町内外の多くの人がPRすることができました。



ふれあいサロンで案山子づくり

今後の抱負

現在町内では、さまざまな課題と向き合い、若い世代も主体的に参加して多様な取組を行う地域が増えてきています。地域のための素晴らしい取組が多いので、関心のある一部の人だけのものになるのではなく、皆が大切に思えるものになるよう、積極的に地域に出向き、福祉的な要素を運んでいきたいと思っています。

自分自身も楽しみながら仕事をしています

山崎 由樹さん

●やまざき ゆき

施設名：社会福祉法人 京丹波町社会福祉協議会
事業所住所：〒622-0311 京都府船井郡京丹波町和田中6番地1
HP/URL：http://www.kyoshakyo.or.jp/kyotanba/
TEL.0771-86-1440 FAX.0771-88-0422

職種：地域福祉ボランティア振興係

経験年数：7年

▶好きな言葉：百聞は一見に如かず

▶夢中になっている事：社協キャラクター「ここたん」と元祖飛び出し坊や「とび太くん」の動向



トピックス

第68回全国児童養護施設長研究協議会が開催される



絵画展のオープンセレモニー

子どもの権利条約採択25周年・批准20周年の記念すべき年に、「子どもの人権を柱に据えた子育て文化の創造を」を大会テーマとした「第68回全国児童養護施設長研究協議会」が去る10月28日(火)～30日(木)の3日間にわたりANAクラウンプラザホテル京都及び京都リサーチパークで開催されました(参加者668名)。今研究協議会では131名の永年勤続職員の方々が表彰され、京セラ(株)稲盛和夫名誉会長の記念講演や6つの研究部会での研究協議、最終日には大会宣言が行われました。

今回の研究協議会の特徴として、初めて児童文化奨励絵画展が堀川御池ギャラリーにおいて一般公開され250点の作品が展示され、好評を得ました。

第58回全国母子生活支援施設研究大会が開催される

去る10月2日(木)～3日(金)の2日間にわたり、京都国際ホテルにおいて第58回全国母子生活支援施設研究大会が開催されました(参加者266名)。今年度の大会は「家族を支える支援を目指して～地域を基盤としたソーシャルワーク～」をテーマとして、記念講演やシンポジウム、また、分科会での各施設の取組み交流などが行われました。

DVや貧困問題が顕著になっている今日、地域で展開する母子生活支援施設の新たな役割や将来像について共有化をはかる大会となりました。



経営相談コーナー

こんなとき、どうします？ Q&A

京都府社会福祉法人経営者協議会

Q 法律などが変わる中で、就業規則の見直しを図りたいのですが、就業規則とはどのような性格のもので、どういった点に注意したらよいですか？

A 就業規則はシンボリック的存在でなく、法改正や制度変更に対応しているか、常に点検・整備を怠らず、労務管理を推進する柱として活用する必要があります。

手順(留意点)として考えられるのは一、

①問題点抽出 現状での問題点を整理してみる。

- 監査等での指摘事項がある
- 労務管理上判断に迷う事例がある

②現在の傾向の点検 ハラスメントへの対応や人事管理の仕組み作りなど。

- 懲戒の規定 ●中・長期計画に基づく給与体系の整備
- 評価制度の導入

③新法に対応 以下の事項の取り決めがなされているか。

- 産前／産後休暇(休業) ●母性健康管理のための休暇
- 育児／介護休暇(休業) ●65歳までの継続雇用制度
- 非常勤職員の契約更新の新たな規定

の3点です。

福祉施設経営相談室には、「職員処遇」に関する相談が全体の60%(平成25年度実績)を占め、その内「就業規則の見直し」に関する相談が大半を占めています。

相談のきっかけとなる内容は2～3の項目でしたが、不備な点が多々見つかり、「全面見直しになる場合が多い」のが現状です。

したがって「就業規則の見直し」は、前記の手順による取組が必要と思われます。

福祉施設経営相談室では、前記①、②、③の状況を確認し、それぞれの事業所に合った内容を提示いたします。ぜひご相談ください。

経営者の皆様へ 社会福祉法人新会計基準への移行をはじめ、法改正による職員処遇の見直しの必要性が色々と発生しております。規則・規程の改定や“先”を見据えた安定経営のための方策が、今後必要となってまいります。経営に関する疑問・相談がありましたら何でも「経営相談室」にご相談ください。インテーク相談は「無料」です。

福祉施設経営相談室

TEL・FAX 075-252-6301

E-mail keiei@kyoshakyo.or.jp

開設時間 月・水・金 10時～17時
火・木 10時～16時

寄付 ご寄贈 ありがとうございました。

平成26年11月19日(水)に株式会社ケーエスケ様より車イス50台をご寄贈いただきました。車イスは、京都府内の各福祉施設にて活用させていただきます。

ありがとうございました。



京都営業部長
大毛 克己様

宮本隆司
常務理事

寄付 ご寄付 ありがとうございました

平成26年11月28日(金)にNPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド様より500,000円のご寄付をいただきました。ご芳志の趣旨に沿って活用させていただきます。

ありがとうございました。



京都支店長
西岡 幸一様

宮本隆司
常務理事

寄付 ご寄付 ありがとうございました

平成26年11月28日(金)に公益財団法人京遊連社会福祉基金様より500,000円のご寄付をいただきました。ご芳志の趣旨に沿って活用させていただきます。

ありがとうございました。

寄付 ご寄贈 ありがとうございました。

平成26年12月3日(水)に関西遊技機商業協同組合様より車イス7台をご寄贈いただきました。車イスは、京都市を含む京都府内の各社会福祉協議会の活動に活用させていただきます。

ありがとうございました。



副理事長
荒谷 博文様

宮本隆司
常務理事

寄付 ご寄付 ありがとうございました

平成26年12月3日(水)に自由同和会京都府本部様より100,000円のご寄付をいただきました。ご芳志の趣旨に沿って活用させていただきます。

ありがとうございました。

研修 平成26年度福祉サービス 苦情解決事業相談研修会

苦情を通して見えてきた福祉サービスの質向上の課題や事業所のあり様など相互に学び合うことを目的に開催します。

- 日時 平成27年2月19日(木) 13:00～
- 会場 京都タワーホテル9F八閣の間
- 主催 京都府福祉サービス運営適正化委員会
- 受講対象 社会福祉施設等の苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員等
- 定員 200名
- 内容 苦情解決事業に関する講義と事例研究を予定

案内 福祉業界 スタートアップフェア

福祉業界の魅力を理解してもらい、就職先の選択肢として興味を持ってもら

うため、業界研究イベントを開催します。是非、ご参加ください。

- 日時 平成27年2月22日(日) 12:00～16:00
 - 会場 メルパルク京都
 - 主催 福祉職場就職フェア実行委員会
 - 対象 全学年対象、一般求職者等
 - 内容 福祉の仕事体験コーナー、福祉業界丸わかりセミナー等
- ※詳しくは、下記までお問い合わせください。

京都府福祉人材・研修センター
福祉人材課 TEL.075-252-6297

案内 「第3回福祉職場就職フェア 京都」

京都府内の約110事業所が出展する福祉職場就職フェアで、「魅力的な職場と仕事に出会おう！セミナー」や「情報コーナー」など併催イベントも企画しています。就職活動解禁の最初のフェアです。是非ご参加ください。

- 日時 平成27年3月3日(火) 10:00～16:00 (説明会は12:00開始)
 - 会場 メルパルク京都
 - 主催 福祉職場就職フェア実行委員会
 - 対象 平成28年3月卒業予定学生、平成27年3月卒業予定学生、一般求職者等
 - 内容 合同就職説明会、福祉の仕事入門講座、各種セミナーなど
- ※詳しくは、下記までお問い合わせください。

京都府福祉人材・研修センター
福祉人材課 TEL.075-252-6297

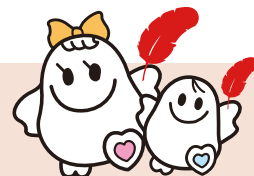
『京都の福祉』をご愛読いただきありがとうございます。

さて、読者の方から541号(10月号)に一部不適切な箇所があるとのご指摘を受けました。紙面のチェックが不十分であったことをお詫びし、今後の教訓といたします。

- 「京都の福祉」へのご意見、ご感想、とりあげてほしいテーマなどをお寄せください。表紙の写真も募集中です。(テーマ「笑顔」)
- 本会へのご意見等は、下記URLの「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。
<http://www.kyoshakyo.or.jp>

京都府社協

検索



本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。